

クリーンセンター焼却灰の放射性物質濃度

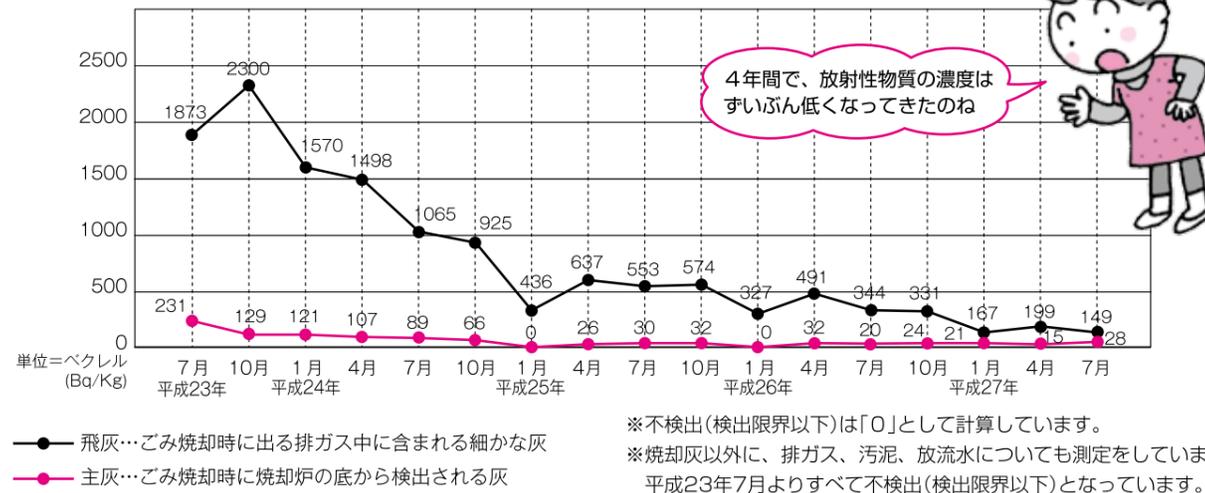
平成23年3月東日本大震災による福島第一原発の事故から5年が経ちました。クリーンセンターでは、ごみの焼却によって発生する灰の中に含まれている放射性物質濃度を平成23年7月から毎月1回(下のグラフは四半期ごと)測定しています。

クリーンセンターでごみを燃やして発生する灰は、二ツ塚処分場にあるエコセメント工場に運ばれ、すべてエコセメント化され、埋め立ては行われていません。

エコセメント工場を運営する東京たま広域資源循環組合では、環境省の定める基準(8,000ベクレル)を超えると灰の搬入を受け付けません。

クリーンセンターでは、焼却灰の他に施設の敷地境界「東西南北4か所」の空間放射線量も測定しています。いずれも、運営協議会で報告されるとともに、武蔵野市のホームページでも公開されています。

焼却灰中の放射性物質量の移り変わり



環境健康診断をご存知ですか？

クリーンセンターの環境健康診断が、今年も2月下旬～3月にかけて実施されます(受付は1月に終了)。

環境健康診断は、現在のクリーンセンターの操業を開始するに当たって、地域住民の安全と権利を守るために締結された「武蔵野クリーンセンター操業に関する協定書」第7条に基づいて、施設周辺の3地域(緑町三丁目・吉祥寺北町五丁目・緑町二丁目三番地)の住民を対象に年1回実施されています。

平成10年頃ダイオキシン類が全国で問題になり、健康に対する関心も高まって受診者が増加し、以来毎年約200名が受診しています(約8割が継続受診)。

健康診断の内容は、市で実施している「基本健康診査」に準じた内科診察、X線検査、血液検査などのほかに、呼吸機能検査が加えられています。検査結果は受診者に送付されるとともに、(公的財団法人)武蔵野健康づくり事業団で5年間保管されます。

できた当初は「公害健康診断」という名称でしたが、時代の変化に合わせて「環境健康診断」と改名して久しくなります。今では、運営協議会による運転状況の監視とともに、環境健康診断が地域住民の施設に対する信頼の一つとなっています。

●クリーンセンターの人事異動

名前	新	旧
千葉 剛	環境部クリーンセンター課長補佐兼管理主査	教育部指導課課長補佐兼指導主査
馬場 武寛	総合政策部企画調整課企画調整主査	環境部クリーンセンター管理主査

平成27年10月1日付け

編集後記
クリーンセンター運営協議会は、昭和59年12月の稼働から30年、施設の維持運営に関する諸問題等について議論を積み重ね、市民と市政とのパートナーシップを育ててきました。折しも本年の秋には、新クリーンセンターが試運転に入り、新しい時代を迎えます。ついではこの運営協議会が先人たちの築き上げて来たパートナーシップを継承し、より安心・安全な施設運営が図られることを願ってやみません。(和田善一郎)

編集・発行/武蔵野クリーンセンター運営協議会
〒180-0012 武蔵野市緑町3-1-5 武蔵野クリーンセンター内
電話: 0422-54-1221
●武蔵野市ホームページ
<http://www.city.musashino.lg.jp/>

*この広報は、再生紙を使用しています。

武蔵野クリーンセンター 運営協議会 だより 62

武蔵野クリーンセンター運営協議会とは
1984年施設建設時に地域住民の安全と権利を守るために設置された周辺住民3団体が参加するクリーンセンター運営の監視役。

工事中 NOW 発電設備を設置

新クリーンセンター工事では、建物と平行してプラント工事が進んでいます。昨年末には高温高圧ボイラーや蒸気タービン発電機などの発電設備が設置されました。

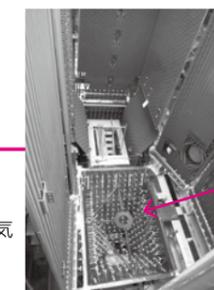
現クリーンセンターは、ごみを燃やした熱を蒸気にして、市役所・総合体育館・第四中学校のプールに送り、給湯や冷暖房、温水プールに活用しています。

新施設は、さらにごみ発電設備を導入して、電気も市役所・総合体育館・緑町コミュニティセンターに供給できるようになります。災害時にも発電しエネルギーを供給して、ごみ処理を継続することができます。

工事の進み具合は、昨年12月末時点で42.7%です。



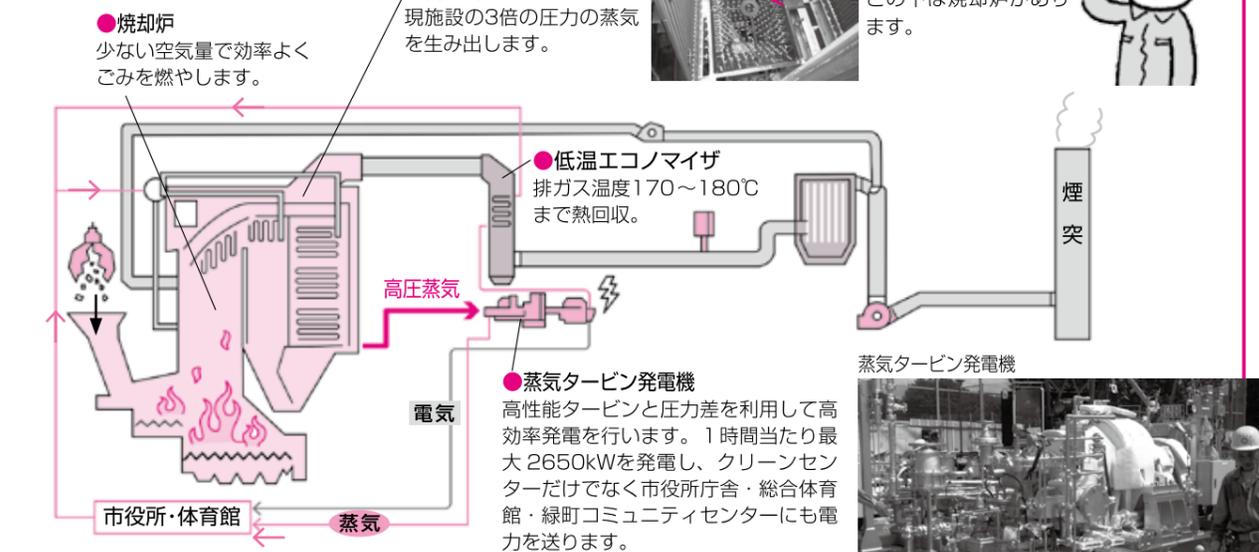
西側から見た新クリーンセンター(右側に市役所があります)。鉄骨は3階まで立ち上がり、中の設備部分の工事が進んでいます。



建物の耐震強度も、基準の1.25倍になり、停電時も発電できる災害に強い施設になります

上から見たボイラー。この下は焼却炉があります。

新クリーンセンターの発電設備



※工事の進行状況は、クリーンセンターのホームページでもご覧になれます。

今年も楽しく

ごみから学ぶ

ワークショップ広場

2015

平成27年10月11日(日)、運営協議会のイベント「ごみから学ぶ ワークショップ広場」が、環境団体や地元の方々のご協力を得て、クリーンセンターのプラットホームで開催され、約350名の来場者でにぎわいました。



電気つくかな。
ドキドキ

▼廃材や木の実を使ってポンポンごまと動物の顔「アニマルフェイス」を作りました。武蔵野自然塾の指導で、子どもたちでも安全にできました。



これは大きな粗大ごみを運ぶ車だよ



▲ペットボトルを使って、発電機にLED電球を取り付け、はさみで切ったプロペラに絵を描いて風力発電機を組み立てます。プロペラを回すとLEDが光って電気になるのを感じ。



環境に関する楽しい体験がいっぱい

ワークショップ広場は、日常はごみを搬入するプラットホームに、環境にかかわりのあるさまざまなブースが並びました。

毎年恒例のおもちゃのかえっことおもちゃ病院。ワークショップは、ペットボトルを使った風力発電機作り、廃材を利用した木工、エコバック作りなど。お茶碗リユースや生ごみ活かす君の展示、恒例の工場見学、パッカー車の試乗、スタンプラリー、さらに今年は地元の新鮮野菜の販売も加わりました。来場者はそれぞれ見て体験し、お土産を手にして楽しみました。



▲カフェでは、けやき茶社(けやきコミュニティセンター)のおいしいサイフォンコーヒーとパールブーケのクッキーで、ちょっとひと休み。



ここがごみを投入するところなんだね

ごみの臭いもしないし、意外ときれいな

▲いろいろなブースが並ぶプラットホームは、ごみピットにごみを投入する入口。天井が高くて広いので、雨天でも安心してイベントが開催できます。



作ったエコバッグにおもちゃや野菜を入れて帰ったのよ



どれにしようか、迷っちゃう

早くおもちゃを探したいな

◀いらぬおもちゃをポイントを代えて、好きなおもちゃにとりかえる「おもちゃのかえっこ」には、いらぬおもちゃを貯めて持ってきた親子が、朝から行列をつくりました。



おもちゃを大切にね

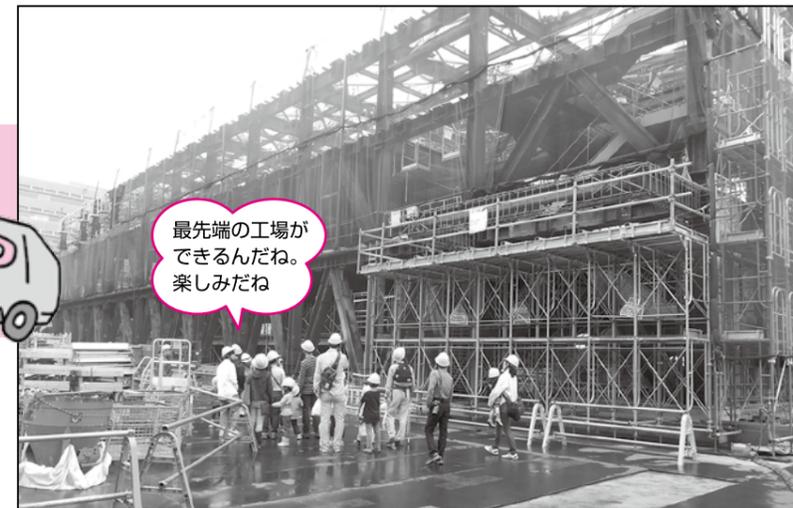
▲壊れたおもちゃを次々に治療するおもちゃドクターのみなさん。



▲お茶碗リユースと家庭で生ごみを堆肥化できる「生ごみ活かす君」の展示。堆肥でできた野菜も。クリーンむさしのを推進する会が相談にものってくれます。



▲ふだん乗れないごみの処理に使うフォークリフト車、ごみ収集に使うパッカー車に乗って、子どもたちは大喜び!



最先端の工場ができるんだね。楽しみだね

▲10月には3階部分まで鉄骨が立ち上がりました。安全に注意しながら、職員の説明を熱心に聞く見学のみなさん。

クリーンセンターを知ってもらおう

ワークショップ広場では、毎回パッカー車の試乗や工場見学を行っています。今年は新クリーンセンターの工事状況の見学も加わり、新旧両方の工場を大勢の方が見学しました。クリーンセンターは生活に必要な施設です。運営協議会では、多くの市民に知ってもらい、ごみの減量や環境に対する意識につなげたいと願っています。



▲工場見学は、プラットホームに集合。ヘルメットを着用して、スライドでクリーンセンターの説明を聞いてから見学に出発。